

# 日本商業教育学会報

No. 21 平成22年3月31日

日本商業教育学会

*Japan Academic Society of Business Education*

## 会長挨拶

会長 中澤興起

新年度を迎え、会員の皆様にはお元気に充実した日々をお過ごしのことと、お喜び申し上げます。

さて、多くの方々のご尽力により、本学会は昨年度、創立20周年を迎えました。昨年8月22日（土）・23日（日）に愛知学院大学を会場にして開催された、「平成21年度総会・研究大会」では記念式典を行い、9名の方々に功労賞、1名の方に奨励賞をお渡しし、3月31日付けで20周年記念誌を発刊いたしました。大多数の会員の皆様には、本学会報、論集20号と共に20周年記念誌をお届けできたのではないかと推察いたします。

平成元年（1989年）、初代会長になられた（故）雲英道夫先生を始め、多くの先人の皆様が本学会を設立されてから20年が経過し、本学会は着実に歩みを進めて参りました。設立当初270人弱の会員が、平成21年度には730名余となり、9部会（北海道、東北、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州）、16支部（茨城、群馬、埼玉、千葉、東京、新潟、石川、静岡、愛知、岐阜、三重、大阪、兵庫、岡山、広島、愛媛）を構成するようになりました。この間の歩みは、本部事務局並びに各部会・支部の皆様により20周年記念誌にまとめられておりますが、本学会の発展は、会員の皆様一人ひとりの研究・教育活動の成果によるものであり、高等学校商業教育が、わが国の経済社会の発展に大きく貢献してきた実績によるものであります。更に、就労者の70%弱（総務省統計局：平成21年度）が第3次産業で働いているサービス経済化社会のわが国では、これから益々商

業教育が重要な位置づけになると思われま

す。けれども視点を変えると、わが国の少子高齢化は進展し続けております。厚生労働省調査によると、平成21年（2009年）の出生者数は約110万人であり、第1次ベビーブーム期であった昭和24年（1949年）の約270万人に対して半分以下、本学会設立時の125万人に対しても15万人の減少となっております。出生率の低下は高校生の数を減らし、高等学校の再編を進め、商業関係の学科で学ぶ高校生は、この20年間で約60万人から約30万人と半減をしております。また、同省の推計によれば、平成21年には全人口に占める65才以上の割合が22%とされております。少子化は人口構成を壊し、労働力、経済力を減少させ、GDPを減少させます。高齢化は社会保障費を増額させ、若年層の負担、不満を増加させ、国力を減少させます。

このような中、平成20年1月に新しい学習指導要領が発表され、次の社会に必要な教育が示されました。「生きる力」を基本理念とし、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②それらを活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力の育成、③学習意欲・学習習慣の確立、が学力の要素とされております。少子高齢化が進むわが国社会で、「商業（ビジネス）に関するスペシャリスト」として生き抜く高校生のために、新しい学習指導要領をどのように展開し実施するのか。本学会並びに会員に与えられた新たな研究テーマとなっております。

## 退任のご挨拶

前会長 岡田修二

第20回全国大会会員総会において、会長を退任させていただくこととなりました。

本商業教育学会には、雲英会長の第1回大会から関わらせていただき、以後河合会長、山田会長、清水会長はじめ多くの会員の方々から温かいご指導、ご支援を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

特に会長を仰せつかってからは、全国の理事の方々、学会事務局の方々には多大なご指導、ご助言を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

会長在任中は何かと不行き届きな点があり、会員の皆様にもいろいろご迷惑やご心配をおかけした点多々あったかと思いますが、学会振興のための意欲に免じてお許しいただきたいと思っております。

会長在任中は、全国大会、各部会、各支部会における会員の皆様の商業教育に対する熱い思いを肌で感じさせていただきました。また、韓国経営教育学会との交流などにも関わらせていただ

きました。このことは私にとりましてなによりの財産であったと思っております。特に最後の年には、当学会創立20周年の節目の大会に会長として関わることができましたことには大きな感動をいただきました。

会長を退任したからと言いましても日本商業教育学会の会員としてこれからも皆さんと一緒に商業教育の振興に向けて活動いたしますので、今後ともご指導・ご助言を頂けますようよろしくお願いいたします。

次期新役員は中澤会長をはじめ、識見、意欲、リーダーシップともに優れた方々ですので、これまで以上に会員皆様方のご協力とご支援をお願いいたします。

会員皆様方のご協力と団結のもとに、日本商業教育学会がますます充実・発展いたしますことを心より祈念致しまして退任の御挨拶とさせていただきます。

## 第20回全国（愛知）大会開催報告

平成21年8月22日（土）、23日（日）の2日間にわたり、日本商業教育学会第20回全国（愛知）大会が、統一論題として「新しい商業（ビジネス）教育の推進をめざして」を掲げ、全国から会員・オブザーバー等を合わせて210名余の参加者を得て、愛知学院大学日進キャンパス（愛知県日進市）で開催された。開会式では、岡田修二会長（静岡産業大学）の挨拶のあと、来賓として、愛知学院大学学長 小出忠孝氏、全商協会理事長 森田聖一氏、韓国経営教育学会会長の金聖恩氏からの祝辞があった。本年度は、学会創立20周年に当たり、開会行事に続き記念式典が挙行され、9名の会員に対し功労賞の賞状と記念品が授与された。

会員総会では、平成20年度事業報告及び決算報告、役員改選、平成21年度事業計画及び予算案が承認された。岡田修二会長は任期満了により顧問に就任、後任として中澤興起氏が新会長に選出された。第1日目は、愛知学院大学商学部客員教授 加藤

勇夫氏から「名古屋人の気質と経済」と題した講演が行われた。研究発表は、統一論題の研究報告として、第1日目に3件の報告が行われた。国際学術交流では、韓国経営教育学会員から12件の研究報告が寄せられ、当日3件の発表があった。研究発表会の後、記念写真撮影が行われ、引き続き、教育懇談会が、約100名の参加を得て盛大に開催された。

第2日目に入り、統一論題研究助成報告を1件、その他の統一論題研究報告として6件の報告が行われた。自由論題研究報告は、3分科会の会場に分かれ、各2件ずつ研究発表が行われた。文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官の西村修一氏から「商業教育が目指す方向について」と題しての講演があった。閉会式では、次期大会開催地代表として、北信越部会の村井吉雄氏から挨拶があった。最後に、閉会の辞として、小見山実行委員長から本大会開催に当たってのお礼の言葉があった。

## 大会概要

創立20周年記念 第20回全国大会

○日程：2009年8月22日（土）～23日（日）

○会場：愛知学院大学日進キャンパス

○大会会長 尾碕眞（愛知学院大学）

○大会実行委員長 小見山隆行（同上）

○統一論題：「新しい商業（ビジネス）教育の  
推進をめざして」

第1日 8月22日（土）（受付開始12:30～）

1. 開会式（13:30～13:40）

会場：学院会館ホール

司会：鈴木慎吾（愛知支部長）

開式の辞：内藤克弘（実行委員）

①日本商業教育学会会長 岡田修二

②第20回全国大会会長 尾碕眞

③来賓祝辞

愛知学院大学学長 小出忠孝様

全国商業高等学校長協会理事長 森田聖一様

韓国経営教育学会会長 金聖恩様

閉式の辞

2. 記念式典（13:40～14:00）

会場：学院会館ホール

会長挨拶 岡田修二

功労者受賞者表彰

受賞者代表謝辞 山田紀雄

3. 会員総会（14:00～14:20）

会場：学院会館ホール

議事

①平成20年度事業報告及び決算報告

②役員改選

③平成21年度事業計画及び予算

4. 講演Ⅰ（14:30～15:20）

会場：学院会館ホール

演題：「名古屋人の気質と経済」

講師：愛知学院大学商学部客員教授

加藤勇夫先生

5. 統一論題研究報告Ⅰ（15:30～17:00）

会場：学院会館ホール

司会：国枝裕（愛知県立東海商業高等学校）



日本商業教育学会 第20回全国（愛知）大会  
平成21年8月22～23日 愛知学院大学

①学会研究助成報告

第1報告 (15:30～16:00)

「新たな学習指導要領の実施に向けた教科指導等の研究—商業教育の充実に向けて—」

報告者：三田哲朗・西木成男・内田靖・

梶寛治(日本商業教育学会埼玉支部)

第2報告 (16:00～16:30)

「新学習指導要領における会計分野の高大接続教育の在り方について」

報告者：田中英淳

(岐阜県立岐阜商業高等学校)

第3報告 (16:30～17:00)

「高等学校での商品開発の取り組み—1校による取り組みから全県への取り組み—」

報告者：上沼善雪

(愛知県立岡崎商業高等学校)

6. 日韓学術交流会 (17:10～18:10)

会場：学院会館ホール

韓国経営教育学会報告

①「The study on the understanding of future leadership according to the human needs」

Lim-Jung Lee (YonSei University)

②「韓国の電子租税情報システム活用実態に対する研究」

林在熙(円光大學校)・申成植(湖原大學校)・

梁海勉(湖原大學校)

③「インターネットショッピング市場の変化と対応戦略」

梁在英(柳韓大学)

☆記念写真撮影 (18:20～18:30)

☆教育懇談会 (18:30～20:00)

会場：学院会館レストラン

第2日 8月23日(日) (受付開始8:40～)

7. 統一論題研究報告Ⅱ

①統一論題学会研究助成報告

会場：12号館G105

司会：平野友春(愛知県立岡崎商業高等学校)

第4報告 (9:15～9:45)

テーマ：「本校における学科改善と商業高

校における新しい情報教育の推進について—PBLを導入した新しい情報人材の育成—」

報告者：中村真二

(静岡県立静岡商業高等学校)

②統一論題研究報告 (9:50～12:30)

会場：12号館G105

第1報告

テーマ：「商業(ビジネス)教育に求めるもの」

報告者：水口栄利(石川県立津幡高等学校)

第2報告

テーマ：「会社法改正とIFRS収斂の影響について—新学習指導要領との関わりを考える—」

報告者：大原誠一郎

(新潟県立長岡明德高等学校)

第3報告

以下、司会：村田孝夫

(愛知県立豊橋商業高等学校)

テーマ：「ビジネスコミュニケーションスキルについて—心のつながり—」

報告者：今井隆弘

(岐阜県立岐阜各務野高等学校)

第4報告

テーマ：「商業科目における「経営」と「金融」の重要性—独立科目の主張—」

報告者：炭谷英一

(神戸市立兵庫商業高等学校)

第5報告

以下、司会：大河内俊範氏

(愛知県立岡崎商業高等学校)

テーマ：「知識経済時代の商業教育—商業高等学校の進学指導の在り方—」

報告者：南谷雄司(兵庫県立小野高等学校)

第6報告

テーマ：「他学科との連携における商業教育の研究—農業科との連携を通じて—」

報告者：塚本宏(千葉県立下総高等学校)

☆昼食・休憩 (12:30～13:30)

第3食堂ビスロッド

8. 自由論題研究報告 (13:30～14:20)

①A研究報告

会場：12号館G105

司会：鈴木隆之（愛知県立緑丘商業高等学校）

第1報告

テーマ：「わが国商業教育の連続性・非連続性」

報告者：小見山隆行（愛知学院大学）

第2報告

テーマ：「キャリア教育の課題—The problem of Career Education—」

報告者：戸田昭直（浜松学院大学）

②研究報告B

会場：12号館G103 (13:30～14:20)

司会：原田政信（愛知県立愛知商業高等学校）

第1報告

テーマ：「マーケティングにおける顧客志向の意味」

報告者：大藪亮（広島大学）

第2報告

テーマ：「サービス・ドミナント・ロジックによるマーケティング教育の新たな可能性—理論と事例の横断的展開—」

報告者：今村一真（兵庫県立西宮高等学校）

③C研究報告

会場：12号館G104 (13:30～14:20)

司会：高塚勲（愛知県立春日井商業高等学校）

第1報告

テーマ：「明治期の需要構造を中心とした我が国織物業の展開」

報告者：吉田一郎（新潟経営大学）

第2報告

テーマ：「国際ビジネス系学部・学科における商業教育の試案」

報告者：白川良典（日本大学）

9. 講演Ⅱ (14:40～15:40)

A会場：12号館G105

司会：野田隆洋（愛知県立愛知商業高等学校）

演題：「商業教育が目指す方向について」

講師：文部科学省初等中等教育局児童生徒課  
産業教育振興室 教科調査官

西村修一氏

10. 意見交換会 (15:50～16:40)

司会：鎌田宗憲（愛知県立岡崎商業高等学校）

11. 閉会式 (16:40～16:50)

①次期大会開催地代表挨拶

村井吉雄

（北信越部会；石川県立加賀聖城高等学校）

②閉会の辞

小見山隆行（実行委員長）

## 要旨

### 講演 I

#### 演題「名古屋人の気質と経済」

講師 愛知学院大学商学部客員教授 加藤勇夫

厳しい残暑の中、全国の各地から多数の先生方が本学にお集まりいただき、大変光栄に思っています。また、創立20周年記念大会に講演の機会を与えていただいております。

今日の演題は「名古屋人の気質と経済」についてですが、気質と経済の関係、名古屋を中心にお話を進めます。名古屋は、広く愛知、中部を含めた形でもとられることが多いので、企業のビジネスモデルについても簡単にお話させていただきます。

今日の名古屋というのは、名古屋市内と言うことだけでなく、愛知、中部、東海に広く企業が散在しておりますので、その辺を厳密には捉えていません。

昨年からの金融危機の影響によって、中部経済を牽引してきました輸出産業に急ブレーキがかかり、さまざまな産業分野で業績の悪化がみられております。中部経済を潤してきた好景気は、そもそも高級車とか大型車を中心とする売上増、世界的なマネーバブルによる上げ底需要によるものが多いわけでございます。それが、昨年夏からいわゆるトヨタショックが起こってきました。世界的な自動車需要の減速、急速な円高により、昨年の11月に2009年3月の業績見通しは1兆6千億円から6千億円に下方修正しております。それから1ヶ月後の12月には、さらに下方修正の速度を高めて、マイナス4千500億円並みの修正をしております。1963年以降のトヨタショックとなっております。このような急速な円高、自動車産業の減産というものが、多方面に大きな影響を及ぼしています。一つは、地方自治体の減収、財政悪化です。もう一つは、雇用面での非正規社員の削減、派遣切りです。全国の有効求人倍率は、2006年が1.06倍、2007年が1.02倍、2008年が0.27倍です。いわゆる失業率は、7月の最近の発表を見ていると、全国平均が5.4に対し、愛知県は5.1ということで、

雇用面でも深刻な状況がでてきております。

経済産業省あるいは日銀の最近の発表を見ていると、景気の回復度が弱いということでございます。生産と輸出面においては持ち直し、今後、少しずつ景気は回復に向かうとはいいいましても、生産の増加は、ハイブリッド車とかエコ家電に限られています。今後、定額給付金、エコ減税、エコポイントによる経済対策の実益な効果がでるかどうかわかりません。日本全体としては、ディフェンシブな業種の食品、医薬品、医療福祉のようところで回復が進むのではなかろうかと思えます。

名古屋は、中部、東海、愛知、名古屋を中心にしたグレーター名古屋という言葉があります。これは名古屋市を中心とした半径100キロ以内ということで、広く、愛知、東海、中部を含めて使われます。今後、名古屋で統一させていただきます。名古屋という地域は、大きな平野、川があり、海にも面しております。東西の交通の要衝であり、人々が集まり、産業が発達する条件を備えております。しかし、こうした地域でありながら、結果としては、政治の中心あるいは商業の中心にはなれなかったのであります。そのために昔から名古屋というのは、モノづくりに励み、モノづくりの原点と言われてきたのであります。

時流に非常に敏感で、借入れをせず、自己資金、内部留保に努める堅実経営をめざした経営が特徴かと思えます。これは名古屋人の気質である質素堅実という特質が反映していると言えます。

経営者はいつもこうした緊張感をもって経営に励んできたのであります。廃業はあっても、倒産・破産は少ない企業風土を生んでおります。モノづくりの屈指の集積地であるだけに、当然、競争は激しいわけです。だから、名古屋は、保守的でありながら、進取の気性をもって新しい技術を導入し、工夫を加えて、他との差別化を図り、世界に通用するような技術や製品を生み出してきました。最近では、機械プラス電気電子技術を応用したメカトロニクス技術開発などを新しく行ってきたわけです。

名古屋的企業というのは、堅実的経営という言葉に象徴されます。堅実的経営、堅実化というのは、名古屋企業全体に当てはまる土台と言われていて、土台に集約される形で、名古屋的経営特質を持つことができたわけです。「長年にわたってコツコツため込んできた」というのは、名古屋の堅実さを物語る有名な言葉であります。「石橋をたたいてもなかなか渡らない」、「一攫千金、あぶく銭をねらわない」、「目先より長期を見据えたお金の使い方をする」、「競争力向上のために改善、工夫に努める」、「政府の力に頼らない」などという言い方もしますが、これらも名古屋的企業の特質を言い表しているのではないかと思います。名古屋とばしという言葉があります。東京・大阪というのは国からの手厚い援助はあるが、名古屋は一切ないというのであります。東西の大経済圏に挟まれているので、それらの侵入に備えて、政府の力に頼らないで情報収集に努めて行うところがあります。そういう点で、東京や大阪の先生方もお見えですが、たとえ話でよく言われるように、東京は、筋が通れば商売が出来る、大阪は、算盤があえば商売になる、名古屋は、相手のうちでご馳走をいただく、じっくり商売が出来ると言います。これは、名古屋が、非常に排他的で、なかなか直ぐに打ち解けない、じっくり時間をかけ、打ち解けると商売になると俗に言われております。名古屋、大阪で、5、6年以上勤務した方が、東京に帰っても、大阪の人とは年賀状の交流がないが、名古屋の人は年賀状の交流はある、そういう非常に義理堅いところがあります。東京の人は、コーヒーを飲んで友達になる、大阪は酒を飲んで友達になる、名古屋は打ち解けるまでに時間はかかるが、いったんつきあうと、非常につきあいが長い、こうした義理堅さは名古屋的企業の特徴かと思えます。

名古屋を代表する企業、日本のナンバーワン企業、どなたでもすぐ浮かぶのがトヨタ自動車、トヨタグループでございます。グループが非常に多くて、これが今、株価の暴落をもたらしています。「株価騰落率ランキング」をみると、暴落率ランキングでは、トヨタグループが多くを

占めています。1位が豊田合成、2位が東海理化、3位がトヨタ紡績。6位は豊田通商、7位がアイシン、8位がデンソー、15位が豊田車両、16位がトヨタ自動車、17位が豊田織機です。トヨタはなんと言っても名古屋のトヨタが中心で、日本全体はトヨタを中心に動いているとも言えます。

そのほかにも名古屋には日本を代表する多くの企業が存在しています。日本の選択と集中ということで、いろんな分野へ集中している代表的企業に日本ガイシがあります。電線から自動車部品、今は、セラミック市場の99%のシェアを占めています。リンナイはガス器具です。ブラザーは、ブラザーミシンからタイプライターやワープロ、FAX、デジタルビデオ、今日では、カラオケ配信等も行っています。マキタ（旧マキタ電工）、ノリタケは日本の陶磁器のほとんどの売上のシェアを占めています。ナゴヤドームや東京ドームの装置もやっています。INAXはCIでいち早く伊奈製陶からの名称変更。ミツカン は、食酢だけでなく、今では、納豆で有名です。カゴメもソースやケチャップだけでなく、トマトジュースを始め野菜ジュースがあります。ポッカは、缶コーヒーのパイオニアですが、今はサンポッカという自動販売機でシェアを持っていて、サッポロビールと統合の話がでています。コンタクトのメニコンなど、名古屋を代表するいろんな会社があります。ヤマザキマザックは、工作機械で、非常にシェアがあります。オークマも製麺機から脱し工作機械でシェアがあります。

名古屋は、選択と集中ということで、トヨタ関連企業が、全国でも有数なナンバーワン企業が多い地域であります。

名古屋の産業ルーツは、木、糸、土、鉄、水との関わりが深いかと思えます。源流は江戸期にあらうかと思えます。木は、高品質の木材があります。木時計とか、鉄道車両、航空機産業などがあります。糸は、豊田佐吉が豊田式自動織機を発明し、織機、紡績産業などがあります。手織りの綿は、愛知県の尾西、一宮が産地であります。土は、腐葉土のことです。窯業などが発展しました。鉄は、電力供給、その後は、鉄